

畑石議員（自民議連）

令和4年12月12日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）教育委員会における官製談合防止法違反及び地方自治法違反について

令和2年度にも教育委員会においては、議決の手續が漏れたり、決裁規程が遵守されていないなど、契約手續の問題が指摘されたが、これまで契約事務の適正化に係わってどのような対策をしてきたのか、また、対策を実施してきているにも関わらず、なぜ不適切な契約手續が繰り返されているのか、併せて教育長に伺う。

また、この度の官製談合防止法違反及び地方自治法違反と認定される専門家による調査結果を受け、平川教育長自身は、今後どのように責任を取っていくのか、また、教育委員会として、どのような点に問題があると考え、再発防止に取り組んでいくのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

この度の調査結果につきまして、教育委員会といたしまして、大変重く受け止めるとともに、まずもって、県民の皆様にも多大な御心配と御迷惑をおかけしたことについて、誠に申し訳なく思っており、お詫び申し上げます。

まず、これまでの対策と、この度の不適正な契約手續が生じた原因・再発防止策についてでございます。

これまで、教育委員会における契約事務の手續きに問題が生じたことに対しまして、

- ・ 議決を要する予定価格7,000万円以上の物品の購入に係る決裁規程の見直し、
- ・ 財務会計システムの改修による注意喚起メッセージの表示

など、関係部局と連携しながら、契約事務の適正化に向けた対策を行ってきたところであり、一定の改善を図ってまいりましたが、今回の調査結果では、組織風土の問題など、別の課題が指摘されているところでございます。

今回、不適正な契約事務が生じた原因といたしましては、調査結果において、職員の側から教育委員会のトップである私に対して忌憚のない意見具申ができ、私はその意見具申に耳を傾けるという組織風土を私自身が十分に整えることができていなかったことが、第一の原因であると指摘されております。

その要因についてでございますが、私は、教育長着任以来、先導的なモデ

ル事業や高校入試改革などの教育改革に先頭に立って取り組んできたところですが、スピードを優先するあまり、結果として、民間活力を活用する手法において、行政として行うべき手続きに対する意識が不足していたと考えております。

また、現場主義を掲げ、風通しの良い組織づくりに努めてきたところですが、職員の声を十分にくみ取ることができていなかったと考えております。

私としては、広島県の公教育を、ただただ、より良くしようと、全ては広島県の子供たちのためにとするあまり、猪突猛進になってしまったと大変反省しております。

個々の職員にではなく、私自身のマネジメントに課題があったことが、今回の指摘を受けることとなった要因ではないかと深く反省しております。

他方で、忌憚のない意見が交わせる組織力の問題が指摘されております。

こうした組織風土の問題は、一朝一夕に実現できるものではなく、持続的な改善の取組が必要であると考えており、こうした課題を、教育委員会の組織内全体で共有を図り、総体として解決方法を考えていくことが必要であると考えております。

このため、組織風土の改善に向けて、様々な年齢や職種で構成する職員が意見を出し合うことや、外部の意見等も取り入れる取組を行って、方法や範囲に予断を持つことなく、改善策を検討してまいりたいと考えております。

また、改善策の取りまとめは、時間を置かずに進めて、実践に移していきたいと考えております。

次に、公募型プロポーザルの実施に当たり、選定委員の人選などの面で、十分に牽制機能を果たしたとは言えないことが指摘されており、関係部局とも連携しながら対応を検討してまいります。

このほか、

- ・ 教育委員会にも内部通報制度はあるものの、機能しておらず、教育委員会による自律的な是正の機会を欠いていたこと、
- ・ 契約事務に関する知識を身に付ける機会がないまま、指導主事が事務職員と共に契約事務に携わっており、教育委員会の職員に公正な契約手続きに関する知識が十分に浸透していないこと

などが指摘されており、

- ・ 教育委員会から独立した外部の通報窓口の設置や、通報窓口の職員への周知、
- ・ 事業の初期段階から指導主事と事務職員がチームとして動くことを徹底させること、
- ・ 年度初めに本庁職員を対象とした契約事務説明会を実施すること

などの対策を早急に講じ、改善を図ってまいります。

次に、私の責任の取り方についてでございます。

今回の調査によって、法令違反を生起させた原因として指摘された、組織風土についての問題は、教育委員会という組織の根幹にかかわる極めて重たい指摘を受けたところでございます。

まずは、指摘された原因等の改善に向けて、再発防止に真摯に取り組み、体制づくりを進めていくことで、しっかりと責任を果たしてまいりたいと考えております。

あわせて、組織風土を整えるための最たる責任は、組織のトップである私にあります。

私自身を含む職員の処分につきましても、厳正に対処するよう、今後検討してまいります。